

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 5 月 8 日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏 名	権永詞
研究課題	「聖-俗-遊」モデルの再検討と「アウトドアの社会学」の可能性				
研究キーワード	アウトドア 遊び 環境 自然保護	当年度計画に対する達成度		4.当初の計画どおり研究が進まなかった	
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	該当なし	

1. 研究成果の概要

当該年度の研究計画として、①「聖-俗-遊」モデルを踏まえた上で、現代社会における「聖-遊」の関係についての理論的検討、②日本各地におけるアウトドア・アクティビティについての定性調査の実施の2点について計画をしていた。このうち、①については、主には基礎文献の消化を行なった。検討内容についての論文発表や学会報告は行わなかったが、2024 年度に「ネイチャー・アクティビティ研究会」を立ち上げ、関連分野に関心を持つ研究者と定期的に報告・検討を行っており、研究会上で適宜報告を行なった。

②について、2024 年度は東京都御岳渓谷におけるフィールド調査を実施した。主に、Mitake Climbing Community (MCC) メンバーへのインタビューおよび、MCC と共同での御岳エリアの開拓期クライマーへのインタビュー動画制作に携わった。御岳渓谷は、競技人口の多い首都圏近辺のアクセスしやすい岩場であることから、自然の岩での最初のクライミング・エリアとして重視されてきた。近年では自然の岩でのクライミングについて知識や情報が不足したクライマーや、インバウンド観光に関連して訪れる外国人クライマーが増えており、岩場におけるマナーの周知が課題となっている。一方で、開拓期のクライマーの多くは、クライミングの自由という精神から監視や警告を強めてマナーを維持・向上することに前向きではない。こうした自由をめぐる葛藤は理論的検討を進める上で重要な意味を持っており、次年度の研究活動において優先順位の高い事項であると考えている。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

・なし

【著書・論文 (査読なし)】

・なし

【学会発表等】

・なし

3. 主な経費

関連書籍の購入代のほか、文具・ソフト代などの消耗品費・雑費のほか、調査のための旅費宿泊費として使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

・なし

（本文は2ページ以内にまとめること）